

石狩平野を一望する

もいわ山ロープウェイ

多分、皆さんが一度は利用したことのあるもいわ山ロープウェイ。開業以来、札幌の観光名所として親しまれてきました。

もいわ山ロープウェイは昭和三十三年七月五日に運転を開始しました。同じ七月に開催された北海道大博覧会に間に合わせるため、急ピッチで建設が進められ、この日を迎えたのです。

当時のロープウェイは八人乗りの小さなゴンドラで、三十両が一分間隔で発車。秒速二メートルで山ろく・中腹駅間を十分で行き交うものでした。まだレジャー施設が少なかった時代の中、物珍しさも手伝って連日大盛況。ゴンドラを待つ列が二階の発着場からはみ出し、一階の切符売り場まで連なっていたそうです。

この小型のゴンドラは四十五年まで運行されましたが、四十七年の札幌冬季オリンピックを機に、最新の技術を駆使した現在の形に改造されました。小

型のゴンドラは引退後、電車事業所前の電停で待合所として使われていましたが、今はなく、交通資料館（南区真駒内東一）に一両残るだけとなりました。

現在の六十六人乗りの大型ゴンドラ二台は交互に山ろくと中腹駅を五分で結んでいます。眼下に広がる石狩平野、遠くは恵庭岳や増毛山地などを一望できるもいわ山ロープウェイは、市民はもとより、札幌を訪れる観光客にも人気のスポットです。

開業以来、千五百万人以上（平成八年現在）の旅客を運んでいます。これからも、多くの人たちの目を楽しませてくれることでしょう。

（平成八年十二月号・第三十五回）



懐かしい8人乗りゴンドラ（昭和45年当時）